

# アセタミプリド液剤の樹幹注入によるプラタナスグンバイの防除効果

上山 博（京都府病虫害防除所）

侵入害虫プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata*(Say)は、わが国では2001年に愛知県で初めて発生が確認され、これまでに1都2府14県で発生が確認されている。

本種は、プラタナスの美観を損ねるだけでなく、周辺住宅に干してある洗濯物や布団に飛来するため不快害虫になっているが、これまで本種の防除に関する知見はほとんどない。また、市街地の街路樹として植栽されていることが多いプラタナスでは、農薬の散布剤による防除は周辺への飛散の影響が考えられる。

そこで演者らは、散布に替わる防除方法としてアセタミプリド2%液剤(商品名：マツグリーン液剤2)の樹幹注入処理による防除効果について実地検討したので報告する。

## 試験方法

試験は、京都府亀岡市西つつじヶ丘地内の街路(幅約10m)の両側に植栽されているプラタナス9樹(品種不明、樹高約10m、植栽間隔8~15m)で行った。

プラタナス1樹を1区とし、アセタミプリド2%液剤の標準量処理区(50倍希釈)、倍量処理区(25倍希釈)および無処理区の3区3反復を設けた。処理量は樹の胸高直径が20~30cm未満は1000~1200ml、30~40cm未満は1400~1600mlを規定量とした。

2011年5月16日にプラタナス樹の幹周囲にドリルを用い、地際から150~180cmの高さの樹幹に、直径約8mm、深さ3cm、下方45度に注入孔をあけ、上記規定量を200mlポリプロピレン製ノズル付きアンプルで環状になるように装着注入した。

処理直前(5/16)から処理56日後(7/11)まで約1週間毎に、加えて処理67日後(7/22)、84日後(8/8)および101日後(8/25)に、各区任意の10葉(地上3~4m)におけるプラタナスグンバイの発生個体を成幼虫別に調査した。

## 結果および考察

処理直前のプラタナスグンバイはそれぞれの区において3.3~4.3頭/10葉の成虫が確認された。処理14日後には、標準量処理区および倍量処理区では成幼虫の発生は確認されず、その後処理101日後までも極めて低い密度(0.0~4.0頭/10葉)に抑制し、葉害も観察されなかった。一方、無処理区では処理14日後は3.3頭/10葉であったが、その後増減を繰り返し、調査期間中発生個体数が最も多かった処理49日後(7月4日)には、10葉当たり成虫29頭、幼虫44頭が確認された。

以上の結果から、プラタナスグンバイに対する本剤の防除効果は、標準量処理区、倍量処理区とも高く、葉害もないと考えられた。

街路樹における樹幹注入剤の活用は、ドリフトのリスクは低いが、液漏れや注入時間、注入高等に留意する必要がある。